

科目名	PBL入門	単位数	2	科目コード	
授業形態	講義・演習	時間数	60	開設期	1 年次
受講条件		開設時期	1 前	教員実務経験対象	有
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	プロジェクト学習 (PBL) は、問題解決能力、チームワーク、批判的思考、コミュニケーションなどの力を実践的に身につけることができ、広く行われるようになってきた。また、リモートでの働き方が広く行われるようになってきた現代、オンラインディスカッションを通じた協働作業のスキルを身につけることも重要である。本授業では、オンラインコミュニケーションの特徴と効果的な技法を学び、それと同時に、オンラインディスカッションとプロジェクトを体験しながらスキルを確かなものにしていく。後続するPBL科目群の基礎となる力を養っていく。				
授業の一般目標					
受講条件					
事前学習について (テキスト・参考書等)	各回の学習内容を踏まえた上で、ディスカッションやプロジェクトに参加すること。また、学習前後の自分の行動の変化を記録しておき、課題2、課題4のレポートに盛り込むこと。				
授業の到達目標					
☑ 知識・理解の観点	自己の表現スタイル、掲示板によるコミュニケーションの特徴やエチケット・マナーについて説明することができる				
☑ 思考・判断の観点	PBLで学べることを理解し、効果的な進め方の技法について説明できる				
☑ 関心・意欲の観点	非同期オンラインによるディスカッションに参加することができる				
☑ 態度の観点	プロジェクト活動に貢献できる				
☑ 技能・表現の観点					
授業計画 (全体)	自身のスタイルやネット上のマナーなど「コミュニケーションの基礎」を学ぶ。次に、議論から発表、振り返りまでを行う「ディスカッションの実践」へ進む。さらに、進行管理など「PBLの技法」を個人とチームの両面から理解した上で、最終的にテーマ設定から成果発表までを行う「プロジェクトの実践」に取り組む。				
授業計画 (授業単位)					
回数日付	授業項目・内容等	授業外学習の指示等	授業の記録		
1~2	協働作業の準備として、自己表現のスタイルを始めとした自分自身の特質を把握する。(質問に答えるとタイプ・スタイルがわかる) ・自己表現タイプ ・ライフスタイル ・学習スタイル ・失敗から学ぶスタイル				
3~4	【書き言葉によるコミュニケーションの特徴と課題を知らう】 オンラインディスカッションの特徴と課題を整理する。 ・非対面コミュニケーションの利点と課題点 ・書き言葉から生じる誤解 ・自分の意図を明確に伝えるための方法 ・書き言葉で文脈を伝えることの重要性				
5~6	【エチケットとマナーを知らう】 よりよいオンラインディスカッションを行うためのエチケットとマナーを整理する。 ・メッセージの礼儀正しさ ・無視されないための返信方法 ・オンラインで守るべき基本マナー ・返信タイミングの重要性 課題1：ブロックテスト (学んだ知識の確認)				
7~8	【ディスカッション (1) —互いに知り合う—】 LMSによるグループディスカッションの方法を学ぶ。グループに別れ、投稿、返信を行う。 ・グループメンバーを確かめる ・自己紹介を行う ・意見を述べる ・出された意見に返信する				
9~10	【ディスカッション (2) —テーマ例：理想のキャンパスライフ—】 第2回、第3回で学んだ内容をもとに自分たちのグループのアイデアをまとめる。 ・ディスカッションの進め方 ・アイデアを出す ・話し合う ・自分たちのグループのアイデアをまとめる				
11~12	【ディスカッション (3) —アイデアを発表する—】 協力して成果をまとめて投稿する。 ・分担する ・分担分を作成して、共有する ・自分たちのグループのアイデアを発表資料としてまとめる ・発表資料を投稿する				

13～14	【ディスカッション（４）ーブラッシュアップとふりかえりー】 ・他のグループの発表にコメントする ・他グループの成果を踏まえて、自グループの改善点を話し合う ・ディスカッションのプロセスで、できたこととできなかったことを話し合う ・できたこととできなかったことをレポートにまとめる 課題2：ブロックテスト（練習を踏まえた個人レポート）		
15～16	【PBL（プロジェクトベース学習）とは？】 PBLで身に付く能力やPBLの進め方について把握する。 ・PBLの事例 ・PBLを通じて身に付く力とは？（問題解決能力、チームワーク、批判的思考、コミュニケーション力など） ・PBLに取り組む前に（目的とスタイル、自己主導、協力、改善とフィードバック） ・PBLの進め方		
17～18	【オンラインでPBLを効果的に進めて行くための技法（１）ー個人でー】 個人が意識して行うことを学ぶ。 ・掲示板での効果的なコミュニケーション ・フィードバック方法 ・時間管理と自己調整 ・モチベーションの維持		
19～20	【オンラインでPBLを効果的に進めて行くための技法（２）ーチームでー】 チームとして行うことを学ぶ。 ・役割分担と進捗管理 ・積極的な意見交換と問題が起こったときの解決方法 ・みんなで決定をするときの技法 ・オンラインディスカッションを活性化させる技法 課題3：ブロックテスト（学んだ知識の確認）		
21～22	【プロジェクト（１）ーテーマ設定ー】 プロジェクトを開始する。 ・自己紹介とグラドルール決め ・テーマ設定 ・計画づくり ・役割分担（情報収集は個人作業）		
23～24	【プロジェクト（２）ー収集した情報に基づく初期ディスカッションー】 集めた情報に基づいて話し合い、次回につなげる。 ・進捗確認（収集した情報の確認） ・意見交換 ・課題の洗い出し ・次回までに行うことの決定		
25～26	【プロジェクト（３）ー課題解決のためのアイデアだしー】 課題解決のためのアイデアを絞り込み、次回につなげる。 ・進捗確認（課題や追加情報の確認） ・アイデアだし ・アイデアの選定 ・次回までに行うことの決定		
27～28	【プロジェクト（４）ープレゼンテーション準備ー】 最終成果物を作成し、投稿する。 ・進捗確認（課題、アイデアの共有） ・プレゼンテーション作成の役割分担 ・プレゼンテーションの作成と確認 ・プレゼンテーションの投稿		
29～30	【プロジェクト（５）ープレゼンテーションとふりかえりー】 ・他チームのプレゼンテーションへのコメント ・他チームからのコメントを見て、自分たちの成果をふりかえる ・プロジェクトプロセスで、できたこととできなかったことを話し合う ・成果そのものと、取り組みプロセスについてレポートにまとめる 課題4：期末テスト（プロジェクトを踏まえた個人レポート）		

成績評価方法

4つの到達目標（学修成果）に対応して設けた4つの課題、および、各授業で行う小テストの結果によって評価する。

〔成績評価の方法〕

以下によって評価を行う。

・小テスト（ブロックテスト・期末テストのない回に実施する）

・ブロックテストー自動採点テスト（課題1、課題3）
 ・レポート（課題2と課題4）
 なお、レポートへのフィードバックはLMSを通じて行う。

【基準】
 評価は、小テスト、ブロックテスト、レポートの合計で行う。
 小テスト20%、ブロックテスト40%（2回合わせて）、レポート40%（2回合わせて）
 また、演習回においてディスカッションに参加していない場合は、小テスト・ブロックテスト、レポートの合計点が60%を超えていても不合格とする。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	秀、S（4）：90点以上
小テスト	○						20%	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート	○						40%	良、B（2）：70点以上
ブロックテスト	○						40%	可、C（1）：60点以上
発表・作品							評価なし	不可、E（0）：59点未満
演習							評価なし	未修得、履修放棄、F
出席							欠格条件	（ ）内はGPA点数
担当教員	竹岡 篤永			実務経験紹介	博士（知識科学） 修士（教授システム学）			

科目名	フィールドワーク		単位数	2	科目コード	
授業形態	講義		時間数	60	開設期	1 年次
受講条件			開設時期	1 前	教員実務経験対象	有
授業概要 (目的・目標とする資格・検定等)	現状で明らかになっていない実世界の課題解決に向けて、観察やインタビューなどによる定性調査の実施と定性データの分析方法を学ぶ。また、実際のインタビューのエクササイズを通じて、相手が持つ問題を抽出し、各自、あるいはクラス内での議論を通じて解決策を提案する。話し相手とのコミュニケーション能力を高めて、実世界の問題解決の経験を得る機会となる。また、既にポートフォリオとPBLの基礎を学修している場合には、この授業は実際のフィールドでの問題解決スキルを高めるステップとなる。					
授業の一般目標						
受講条件	「ポートフォリオⅠ」「PBL入門」を並行履修しているあるいは、履修済みであることが望ましい。					
事前学習について (テキスト・参考書等)	教科書：なし 参考書：フィールドワークの技法と実際：マイクロ・エスノグラフィー入門（箕浦康子/ミネルヴァ書房/1999）、社会調査のための計量テキスト分析―内容分析の継承と発展を目指して【第2版】 KH Coder オフィシャルブック（樋口 耕一/ナカニシヤ出版/2020）、社会にひらく社会調査入門（文貞實 他/ミネルヴァ書房/2023）、はじめての社会調査（三井さよほか/ 世界思想社/2023）					
授業の到達目標						
☒ 知識・理解の観点 社会調査とは何かとその調査方法を説明することができる						
☒ 思考・判断の観点 定量調査と定性調査の特徴やそれぞれのメリット・デメリットを説明することができる						
☒ 関心・意欲の観点 インタビュー調査の実施方法を理解し、調査計画書を作成できる						
☒ 態度の観点 インタビュー情報を分析して、問題解決の提案ができる						
☒ 技能・表現の観点						
授業計画（全体）						
授業計画（授業単位）						
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等		授業の記録
1～2	社会調査とは ・社会調査とはなにか、本講義で学ぶ内容やその意義を理解する					
3～4	定量データと定性データ ・定量調査と定性調査の特徴やその活用方法の違いについて学ぶ ・調査における倫理的配慮について学ぶ					
5～6	フィールドワークのスキル1 ・参与観察法の目的、データの特徴、技法、テーマの設定方法を学ぶ					
7～8	フィールドワーク事例1 ・実際のフィールドワークの調査事例を参考に分析方法や結果のまとめ方について学ぶ 課題1：ブロックテスト（自動採点による解説）					
9～10	フィールドワークのスキル2 ・ドキュメント法／資料分析／二次分析について理解し、すでにある文献資料や統計資料で調査する方法を学ぶ					
11～12	フィールドワーク事例2 ・実際のフィールドワークの調査事例を参考に分析方法や結果のまとめ方について学ぶ					
13～14	フィールドワークのスキル3 ・インタビュー法について理解し、話を聞くことに関するテクニックを学ぶ					
15～16	フィールドワーク事例3 ・実際のフィールドワークの調査事例を参考に分析方法や結果のまとめ方について学ぶ 課題2：ブロックテスト（自動採点による解説）					
17～18	インタビュー調査（基礎編） ・構造化データ、非構造化データ、半構造化データの違いを理解し、それぞれの利用方法や分析方法について学ぶ					
19～20	インタビュー調査（実践編） ・半構造化インタビューの実施計画書の作成方法を学び、仮想インタビューの計画書を作成する					
21～22	インタビュー調査実践1（調査編） ・インタビュー映像を視聴し、回答者が抱える問題点を整理する ・演習結果を小レポート形式で提出する（自動採点による解説及びTA、担当教員からフィードバック）					

23～24	インタビュー調査実践1（分析編） ・第11回課題の問題点や解決方法について考察し、各自で整理して提案をまとめる 課題3：ブロックテスト（自動採点による解説及びTA、担当教員からフィードバック）							
25～26	テキストマイニング ・定性データを定量的に分析する概念と分析方法を理解し、ソフトウェアによる計量テキスト分析を学ぶ							
27～28	インタビュー調査実践2（調査編） ・実際のインタビュー映像を視聴し、回答者が抱える問題点を整理する ・演習結果を小レポート形式で提出する（自動採点による解説及びTA、担当教員からフィードバック）							
29～30	インタビュー調査実践2（分析編） ・第14回課題の問題点や解決方法について考察し、各自で整理して提案書にまとめる 課題4：ブロックテスト（自動採点による解説及びTA、担当教員からフィードバック）							
成績評価方法								
4つの到達目標（学修成果）に対応して設けた4つの課題と2つの小レポート、および、各授業で行う小テストの結果によって評価する。 〔成績評価の方法〕 授業の1、2、3、5、6、7、9、10、13回には、自動採点の小テストを実施する（3回まで受験可能）。 ブロックテスト（課題1、課題2）は自動採点のテスト形式で実施する（3回まで受験可能） レポート（課題3と課題4（期末テスト））は穴埋め記述式及び選択式で実施し、TAと担当教員からLMSを通じてフィードバックを行う。 この他に、授業の11、14回は小レポート形式のテストを設ける。小レポートへのフィードバックは自動採点及びTAと担当教員からLMSを通じて行う。 〔基準〕 小テスト：30% 課題1、課題2：20% 課題3、課題4：30% 小レポート（合計2回）：20%								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	秀、S（4）：90点以上
小テスト	○						30%	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート	○						20%	良、B（2）：70点以上
課題1、課題2	○						20%	可、C（1）：60点以上
課題3、課題4							30%	不可、E（0）：59点未満
演習							評価なし	未修得、履修放棄、F
出席							欠格条件	（ ）内はGPA点数
担当教員	川本 弥希			実務経験紹介	博士（学術） 経営工学・サービス科学			

科目名	消費者行動心理	単位数	2	科目コード	
授業形態	講義	時間数	60	開設期	2年次
受講条件		開設時期	2前	教員実務経験対象	有
授業概要 (目的・目標と する資格・検定 等)	心理学、行動心理学の基礎を学修し、消費者の心理と行動の関係を理解する。消費者の購買心理を体系的に捉えて、消費の意思決定プロセスを把握するための分析手法を学ぶ。また、様々なサービスの局面で利用されている行動心理学の活用事例について学ぶ。全体を通じて、消費者が購入を決定する背後にある動機や認知のメカニズムを解き明かし、サービス構築やマーケティング戦略に役立つ実践的な分析スキルを身につけることを目標とする。例えば、顧客行動分析におけるカスタマージャーニーマッピングを通じて、顧客体験を細分化し、サービスにおける改善点を特定する手法を修得する。				
授業の一般目標					
受講条件					
事前学習について (テキスト・参考書等)					
授業の到達目標					
☑ 知識・理解の観点	消費者の行動心理の基本概念を説明することができる				
☑ 思考・判断の観点	日本の消費者の行動傾向を理解し、説明することができる				
☑ 関心・意欲の観点	消費者心理の概念を理解し、それに基づく調査方法を説明することができる				
☑ 態度の観点	消費者行動の概念を理解し、それに基づく調査方法を説明することができる				
☑ 技能・表現の観点					
授業計画（全体）	心理学の基礎から始まり、感覚・記憶が消費に与える影響や、ブランド意識などの態度形成、意思決定プロセスを学ぶ。また、自己表現や集団、文化（推し活等）、悪質商法による被害といった「社会的消費行動」を幅広く紐解く。さらに、顧客満足度やカスタマージャーニーを用いた心理・行動分析の手法を修得し、サービス改善の提案力を養う内容となっている。				
授業計画（授業単位）					
回数日付	授業項目・内容等	授業外学習の指示等		授業の記録	
1～2	心理学と行動心理学 ・心理学の種類や歴史、本講義で学ぶ内容やその意義を理解する				
3～4	感覚と知覚 ・消費行動に影響を与える感覚と知覚について、認知理論をベースに学ぶ				
5～6	学習と記憶 ・メディア・広告などが与える心理的効果や顧客体験について学ぶ				
7～8	消費者を知る ・消費者のセグメンテーション、消費者とのコミュニケーション、マーケティングについて学ぶ 課題1：ブロックテスト（自動採点による解説）				
9～10	消費の態度 ・人の嗜好が形成されるプロセス、ブランド意識やロイヤルティの心理的側面について学ぶ				
11～12	社会的消費行動1：自己表現の消費 ・消費と社会の中でのアイデンティティの形成の関連について学ぶ				
13～14	消費の意思決定 ・消費者の意思決定プロセス、最適化と満足化、個人のニーズの差について学ぶ				
15～16	社会的消費行動2：集団による消費 ・集団の中で形成される価値と消費行動の関連について学ぶ 課題2：ブロックテスト（自動採点による解説）				
17～18	消費の心理分析（基礎編） ・物財とサービス財の品質、顧客満足度、ロイヤルティについて学ぶ				
19～20	消費の心理分析（応用編） ・顧客心理の測定手法と分析手法、サービス改善の提案方法について学ぶ 準備学習：消費の心理分析（基礎編）の内容を理解しておく				
21～22	消費の行動分析（基礎編） ・ユーザーエクスペリエンス、カスタマージャーニーマッピングについて学ぶ				
23～24	消費の行動分析（応用編） ・カスタマージャーニーマッピングを用いた顧客体験の分析とサービス改善提案方法について学ぶ 課題3：ブロックテスト（自動採点による解説）				

25～26	社会的消費行動3：文化的消費 ・「押し」を「推す」という行動や聖地巡礼などの 特有な消費行動がどうして生 まれるのかを学ぶ		
27～28	社会的消費行動4：詐欺と苦情行動 ・なぜ悪質商法に人はだまされるのか、苦情行動は どうやって発生するのかを学ぶ		
29～30	社会的消費行動5：消費欲求と消費社会 ・人の消費欲求と快楽、それを取り巻く現代の社会的 環境について学ぶ		

成績評価方法

4つの到達目標（学修成果）に対応して設けた4つの課題、および、各授業で行う小テストの結果によって評価する。
〔成績評価の方法〕
ブロックテストを実施しない回には、自動採点の小テストを実施する（3回まで受験可能）。
ブロックテスト（課題1、課題2、課題3）と期末テスト（課題4）は自動採点のテスト形式で実施する（3回まで受験可能）。期末テストの出題範囲は全体とする。

〔基準〕

小テスト：40%

課題1～課題4（合計4回）：60%

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
課題1～課題4							60%	秀、S（4）：90点以上
小テスト	○						40%	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	良、B（2）：70点以上
ブロックテスト							評価なし	可、C（1）：60点以上
発表・作品							評価なし	不可、E（0）：59点未満
演習							評価なし	未修得、履修放棄、F
出席							欠格条件	（ ）内はGPA点数
担当教員	川本 弥希			実務経験紹介	博士（学術） 経営工学・サービス科学			

科目名	PBL基礎Ⅰ		単位数	1	科目コード			
授業形態	演習		時間数	30	開設期	2年次		
受講条件			開設時期	2	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	PBL入門受講した学生が自ら問題を見つけ、さらにその問題を自ら解決する能力を身に付ける学習を通じて、ヒューマンスキルの向上をはかる。							
授業の一般目標	企業や団体・自治体との連携を通して現実社会での課題解決に貢献する。							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
☒ 知識・理解の観点	思考法やプロジェクトの進め方などの方法論を身に付けられたか・協力企業／団体の状況について正しく理解できたか							
☒ 思考・判断の観点	さまざまな段階で状況を進展させるアイデアを出せるか							
☒ 関心・意欲の観点	問題解決能力の必要性を理解し、関心を持って臨んでいるか							
☒ 態度の観点	授業に積極的に参加し、チームに貢献できているか							
☒ 技能・表現の観点	アイデアを相手に正しく伝えられるよう表現できるか・協力企業／団体の課題を解決できたか							
授業計画（全体）								
アイデアの出し方、発表の仕方について演習を通じて学習します。								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等		授業の記録		
1～2	オリエンテーション							
3～4	企業紹介							
5～10	リサーチ・着想・発案練習							
11～12	プロトタイピング・テスト練習 講評							
13～14	リサーチ・着想・発案							
15～16	中間発表①							
17～18	プロトタイピング・テスト①							
19～20	中間発表②							
21～28	プロトタイピング・テスト②							
29～30	最終成果発表							
成績評価方法								
1 授業内で下記観点から評価を行う。								
2 授業最終課題提出によって下記観点から評価を行う。								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○			20	秀、S（4）：90点以上
小テスト							評価なし	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	良、B（2）：70点以上
授業態度			◎	◎			20	可、C（1）：60点以上
発表・作品					◎		20	不可、E（0）：59点未満
演習	◎	◎	○	○	○		40	未修得、履修放棄、F
出席							欠格条件	（ ）内はGPA点数
担当教員	赤木康二			実務経験紹介				

科目名	アントレプレナー		単位数	2	科目コード	
授業形態	演習		時間数	60	開設期	2年次
受講条件	アントレプレナーシップ入門		開設時期	2前	教員実務経験対象	有
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	アントレプレナーシップを発揮した課題解決の実践					
授業の一般目標	起業家精神を養い地域社会に貢献できる人材育成を目指すアントレプレナーシップ科目の「演習編」として、1年次の「入門編」で身に着けた見方考え方を活用し、具体的なペルソナを想定したビジネスモデルの立案をめざす →実際にビジネスモデルの立案をリーンキャンパスを使って行う（EEのUNIT2+3） →「人間中心のデザイン」（1年次に学ぶ）で「具体的なペルソナ」を設定し「ペルソナの課題解決」を支援するアイデア創出 <展開案> ペルソナ＝連携企業・行政の場合 山口県下の地域中小企業・行政と連携し、彼らの挑む社会課題や彼らのサービスに関連する新たなビジネスアイデアを提案する					
受講条件	アントレプレナーシップ入門					
事前学習について（テキスト・参考書等）						
授業の到達目標						
☑ 知識・技能の観点		【知識】アントレプレナーに求められる資質能力やスキルを理解している				
☑ 知識・技能の観点		【技術】対象（具体的なペルソナ）の課題解決に必要な情報を収集し分析・整理・活用する				
☑ 思考・判断・表現の観点		対象（具体的なペルソナ）の課題解決のために人間中心のデザイン思考を実践し、ビジネスアイデアとして表現できる				
☑ 関心・意欲・態度の観点		アントレプレナーシップマインド（8つのマインドセット）を発揮する				
授業計画（全体）						
・アントレプレナーマインドセットを身に着け、地域の課題解決の実践力を養いたい ・アントレプレナーに必要な思考ワークを中心とし、インプットだけではなく、考え方を柔軟かく、視点を多角的に持てるように進める ・進行には「協働的な学び」のスタイル（Think-Pair-Share）を取り、学生同士の交流や双方向の刺激が生まれるように進める ・山口県内の企業や行政などと連携し「具体的なペルソナ」の課題を解決するビジネスプランを検討する						
授業計画（授業単位）						
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等 (事前・事後学習 各回約1時間)		授業の記録
1	イントロダクション <内容> 1. 本コースの全体の目標の確認 2. 入門コースで実施したデザイン思考ワークのふりかえり 3. デザイン思考ワークの応用 ※テーマは何でもOK、手法を思い出すため 4. リーンキャンパス（成果物）の説明			事前学習： 入門コースのふりかえり 事後学習： 個人目標の設定、EMIアンケートの実施		
2	Design thinking 応用①市場調査とは？ How much is that Doggy? Part1（ペットにまつわるビジネスアイデア立案） <内容> 1. 課題の提示 2. インタビュー実施（ブレインストーミングの材料集め） ・複数名のグループをつくり、そのうち1人はペットを飼っている ／飼っていた人がグループに含まれるようにする 3. インタビュー内容をメモし、ポイントを整理する			事前学習： 市場調査とはどんなものか、事前に調査する 事後学習： ペットに関連するビジネスの事前調査		NFTEプログラムを活用
3	Design thinking 応用①市場調査とは？ How much is that Doggy? Part2（ペットにまつわるビジネスアイデア立案） <内容> 1. 課題の提示 2. インタビュー内容をメモし、ポイントを整理する 3. インタビュー内容を踏まえ、ビジネスアイデアを検討する 4. ビジネスアイデアをスケッチする ※創ることができるとの望ましいが、絵を描くだけでもよい 5. まとめ（共感の重要性） 6. 次の課題の確認			事前学習： ペットに関連するビジネスの事前調査 事後学習： ビジネスアイデアのスケッチの完成、ワークのふりかえり		NFTEプログラムを活用
4	Design thinking 応用②クライアントヒアリング 準備 ★3-4チームに分かれて実施 <内容> 1. 課題の提示 2. クライアントとなる企業・行政に関する紹介 3. グループに分かれて担当する企業・行政に関するリサーチ 4. インタビュー項目の決定 ・前回のワーク（How much is that Doggy?）の経験を活かす			事前学習： ビジネスアイデアを検討するためにインタビューがなぜ重要なミニレポート 事後学習： インタビュー項目の完成		学校オリジナル・地域連携
5	Design thinking 応用②クライアントヒアリング ★クライアント＝地域企業・行政・団体等の担当者が学校に来訪 3-4チームに分かれて実施 <内容> 1. 課題の提示 2. クライアントの事業紹介と解決したい社会課題の説明 3. グループに分けてクライアントがどんなビジネスを通じ、地域社会のどんな課題解決に挑んでいるか詳細ヒアリング 4. 次の課題の確認			事前学習： 今回の連携先についての事前調査 事後学習： ワークのふりかえり		学校オリジナル・地域連携
6	Lean canvasのアップデート <内容> 1. クライアントのヒアリングのふりかえり 2. クライアントの事業や課題に関する追加リサーチ 3. クライアントのビジネス領域に関連し解決したい課題や課題を持っているペルソナの設定 ●リーンキャンパス:課題			事前学習： 地域の消費者・生活者の抱える課題等の事前調査 事後学習： リーンキャンパスのタイトル完成（課題）		
7	Lean canvasのアップデート <内容> 1. 課題解決案（ビジネスアイデア）の検討～具体化 2. 課題解決案（ビジネスアイデア）の中間プレゼン準備 3. 次の課題の確認 ●リーンキャンパス:解決策			事前学習： 地域の消費者・生活者の抱える課題等の事前調査 事後学習： リーンキャンパスのタイトル完成（解決策）		
8	ビジネスアイデアの中間チェック① ※企業・団体のみなさまからアイデアに関するフィードバックが欲しい ●リーンキャンパス修正、アップデート			事前学習： フィードバックをもらう準備 事後学習： リーンキャンパスの修正		学校オリジナル・地域連携

9	Competitive Advantage①「差別化」はなぜ必要か？ レストラン戦争 Part1（地域にない独創的なサービスを展開するレストラン提案） <内容> 1. 課題の提示 2. 地域のレストランについて調べる ・それぞれのレストランが＜他と何が違うのか＞について考える （例：立食のみ/フードトラック/店舗販売があるか、など） 3. 地域に今は存在しないレストランのアイデアを考える 4. レストランの店名、提供する料理の種類、場所、価格などを書いたポスターを作成する 5. まとめ（他社との差別化、独自性の重要性）	事前学習： 地域にある飲食店について事前調査 事後学習： ポスターの完成	NFTEプログラムを活用
10	Competitive Advantage②「差別化」はどうつくる？ レストラン戦争 Part2（自分の考えたレストランをSWOT分析する） <内容> 1. 課題の提示 2. クラスを「地域」に見立て、他のクラスメイトのレストランと自分の考えたレストランのSWOT分析をおこなう ・SWOT分析後、1つのレストランに対し「立ち退き通知」を出す 3. まとめ（差別化要因が多いほど、ビジネスの可能性が見込める）	事前学習： SWOT分析とはどのような手法なのか事前調査 事後学習： ワークのふりかえり	NFTEプログラムを活用
11	ビジネスアイデアのアップデート <内容> 1. 課題解決案（ビジネスアイデア）を検討する 2. チーム内、チーム間で共有する	事前学習： ここまで学んだことを踏まえ、自身のビジネスアイデアを検討するために必要な事前調査 事後学習： ビジネスアイデアのアップデート	
12	Lean canvasアップデート <内容> 1. 課題解決案（ビジネスアイデア）の独自の価値提案を検討する 2. 課題解決案（ビジネスアイデア）の優位性を検討する 3. 次の課題の確認 ■リーンキャンバス:独自の価値提案、優位性	事前学習： ビジネスアイデアのアップデート 事後学習： リーンキャンバスのアップデート	
13	Marketing Business① 雑誌ゲーム Part1(雑誌の広告を分析し、マーケティングを理解する) <内容> 1. 配られた雑誌に目を通し、掲載されている商品の内容や広告のデザインをチェックする 2. ターゲットマーケットを特定する （例：「高齢者」「若年層」「男性」「女性」などの属性） 3. 雑誌の中から2つの広告を選択し、1つは特定したターゲットマーケットに対して有効だと思う広告、もう1つはあまり有効だと思うない広告を選択し、理由を発表する 4. まとめ（広告は意図されたターゲットマーケットに向けて制作、掲載されている、アイデアを人に伝えるためにターゲットを絞る）	事前学習： 広告を複数収集し、どんな特徴があるか事前調査 事後学習： ワークのふりかえり	NFTEプログラムを活用
14	Marketing Business② 雑誌ゲーム Part2(雑誌の広告を分析し、マーケティングを理解する) <内容> 1. 仮説（ターゲット）と確認した雑誌の概要を比較する 2. 2種の広告を作成する ※デジタルツール私用 ・ウェブサイトの情報から読み取れる、ターゲットに向けたまったく新しい広告 ・前回のワークで有効だと思わなかった広告を修正した広告 3. 全体共有	事前学習： 前回のワークで使った雑誌の概要を、発行元の企業のウェブサイト等から確認する 事後学習： 広告の完成	NFTEプログラムを活用
15	Marketing Businessのふりかえり <内容> 1. マーケティングに重要なポイントの確認 ※スライドあり 2. 地元企業・行政等の事例の提示 3. 今回のクライアントの事業領域に関連する広告等のリサーチ	事前学習： 学んだことをもとに、ターゲットに対し訴求が効果的にできている事例を収集 事後学習： ワークのふりかえり	
16	Lean canvasアップデート <内容> 1. 課題解決案（ビジネスアイデア）のターゲットを検討する 2. 次の課題の確認 ■リーンキャンバス:課題、解決策、ターゲット	事前学習： ビジネスアイデアのターゲットを改めて設定する 事後学習： リーンキャンバスのアップデート	
17	ビジネスアイデアの中間チェック② ※企業・団体のみなさまから顧客分析に対するフィードバックがほしい ■リーンキャンバス修正、アップデート	事前学習： フィードバックをもらう準備 事後学習： リーンキャンバスの修正	学校オリジナル・地域連携
18	クライアントのビジネスや顧客を知る（実地研修）	事前学習： フィールドワークアンケート作成 事後学習： まとめ	学校オリジナル・地域連携
19	クライアントへのビジネスや顧客を知る（実地研修）	事前学習： フィールドワークアンケート作成 事後学習： まとめ	学校オリジナル・地域連携
20	ビジネスアイデアのアップデート <内容> 1. 課題解決案（ビジネスアイデア）を検討する 2. 全体共有	事前学習： ビジネスアイデアのアップデート 事後学習： リーンキャンバスのアップデート	
21	Segment this！①セグメントする！Part1（自分とクラスメイトの特性から顧客セグメントとは何かを理解する） <内容> 1. クラスメイトと「共通していること」を見つける （例：全員が映画を見るのが好き、など） 2. 1つ以上の「違い」を見つけ、メンバーを分類する 3. 次に、グループを2つ以上くっつけセグメンテーションを作り結果を共有する 4. ふりかえり 5. まとめ（顧客セグメントの重要性）	事前学習： 顧客セグメントとは何か事前調査 事後学習： ワークのふりかえり	NFTEプログラムを活用
22	Segment this！②セグメントする！Part2（顧客セグメントの実践ワークを通じ自身のビジネスにいかせる手法を習得する） <内容> 1. B2Cビジネスの「消費者プロフィール」、B2Bビジネスの「企業プロフィール」（いずれもサービス・製品を購入する側＝顧客）を作成する 2. 顧客プロフィールの各要素の定義を考えた上で、データをそれぞれの項目に割り当て 3. ふりかえり 4. まとめ（顧客セグメントにより価値を創る）	事前学習： クライアントである企業・行政の顧客についての事前調査 事後学習： 自身のビジネスアイデアに関連する顧客プロフィールの作成	NFTEプログラムを活用
23	顧客セグメントに関するふりかえり <内容> 1. 重要なポイントの確認 ※スライドあり 2. 関連する事例の提示 ■リーンキャンバス：顧客セグメント	事前学習： ビジネスアイデアのアップデート 事後学習： リーンキャンバスのアップデート	

24	ビジネスアイデア（Lean Canvas）の最終アップデート	事後学習： リーンキャンパスのアップデート	
25	ビジネスアイデア（Lean Canvas）の最終アップデート 同時進行で、個別フィードバック、相談会 <内容> ・ビジネスアイデアの最終アップデート ・チームごとに、外部講師（YICが連携している起業家等）による アドバイス	事前学習： リーンキャンパスのアップデート 事後学習： ここまでに学んだことのふりかえり	学校オリジナル・地域連携
26	ビジネスアイデアピッチ準備 <内容> ・ビジネスアイデアの進め方説明、評価規準を示す ・プレゼン資料の作成	事前学習： リーンキャンパスのアップデート 事後学習： プレゼン資料の作成	
27	ビジネスアイデアピッチ準備 <内容> ・プレゼン資料の作成つづき ・リハ（学生同士、クラス内の評価）など	事前学習： プレゼン資料の作成 事後学習： ピッチに向け、自身のアイデアの価値を言語化する	
28	ビジネスアイデアピッチ ※地域のアントレプレナーを評価者に迎える <内容> 1. 評価者の紹介 2. チームごとのピッチ	事前学習： プレゼンの準備	学校オリジナル・地域連携
29	ビジネスアイデアピッチ～最終結果発表 ※地域のアントレプレナーを評価者に迎える ※チーム数により調整 <内容> 1. チームごとのピッチ 2. 優秀チームの発表 3. 審査員からの講評 4. まとめ（ここまでの学びのプロセスふりかえり）	事前学習： プレゼンの準備 事後学習： ピッチのふりかえり（今後に向けた展望）	学校オリジナル・地域連携
30	コースのふりかえり <内容> ・個人でレポート作成 ・全体共有	事後学習： EMIアンケートの実施	

成績評価方法								
小テスト（各セクションで1回ずつ、計4回）、レポート、出席								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								秀、S（4）：90点以上
小テスト	○	○	○	○				優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート								良、B（2）：70点以上
授業態度			◎	◎				可、C（1）：60点以上
発表・作品					◎			不可、E（0）：59点未満
演習	◎	◎	○	○	○			未修得、履修放棄、F
出席								（ ）内はGPA点数
担当教員	濱田 和生（予定）			実務経験紹介				

科目名	地域おこし論	単位数	2	科目コード	
授業形態	講義	時間数	60	開設期	3年次
受講条件		開設時期	3前	教員実務経験対象	有
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	この授業では、地域経済の再活性化に向けて地域おこしの重要な役割を学ぶ。地域おこし、地方創生を考える際、その地域の産業、資源、地政学的特徴、人口、交通などの特性を整理し、その上で、産業振興や観光振興等のブランディング、そして地域特有のイノベーションを推進する多様な手法について探求する必要がある。また実際の地域おこし、地方創生の事例を深く分析し、その成功要因と課題の検討をしていく。そして、地域の振興計画の立案や実行に必要な、経済的な枠組みと戦略的な思考を修得し、また持続可能な地域開発を目指すための地域コミュニティとの連携方法、イベントの企画運営、地域資源のマネジメントスキルを実践的に学ぶ。このコースを通じて、地域の魅力を再発見し、地域経済に新たな活力をもたらすための具体的なステップを踏み出すことができるようになることを目指す。				
授業の一般目標					
受講条件	マーケティングの基礎、デザイン思考、国際関係論に関する科目を履修しておくことが望ましい。				
事前学習について (テキスト・参考書等)	・テキストはオリジナルのものをパワーポイントで作成し、履修者はpdfでダウンロードできるようにする ・参考図書：「地方創生大全」、木下 斉著、東洋経済新報社(2016)、その他適宜指定				
授業の到達目標					
☒ 知識・理解の観点	マーケティング、ビジネスモデル等の関連手法を学び、日本の抱える課題を確実に認識し、イノベーションの必要性を説明できる				
☒ 思考・判断の観点	地域おこし、地方創生、スマートシティ等の事例を研究し、成功・失敗パターン等説明できる				
☒ 関心・意欲の観点	デジタル的な施策を含む、地域おこし、地方創生に向けた先進的かつ、事務的な説明・提案ができる				
☒ 態度の観点	プレゼンテーション手法を活用して、魅力的な提案書を作成できる				
☒ 技能・表現の観点					
授業計画（全体）					
少子高齢化や都市間格差などの現状と課題をふまえ、工業や観光、農林水産業といった多様な分野の事例研究を行う。また、PEST分析や3C分析などのマーケティング手法、DX、スマートシティの動向などを学習する。最終的には、地方都市の状況に応じた問題整理やアイデア創出を行い、魅力的な提案書の作成と発表へと繋げる構成である。					
授業計画（授業単位）					
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録
1～2	日本の少子高齢化、産業の動向、都市間格差等をふまえ、地域おこし、地方創生の必要性を認知する				
3～4	日本と他国の人口推移、経済、産業の差異等から、日本の立ち位置を考える				
5～6	日本地域おこし、地方創生における取るべき戦略について考える ・戦略の考え方を学ぶ 課題1：日本の抱える課題等についてのミニテストを行う				
7～8	地域おこし/地方創生の事例研究1 ①工業充実型 ②農林水産業充実型 学校充実型				
9～10	地域おこし/地方創生の事例研究2 ③観光・サービス充実型 ④モビリティ充実型 中小企業育成型				
11～12	行政と産業クラスター、工業団地、道の駅等の役割、事例について考える				
13～14	各地域の特徴とセグメンテーション ・マーケティングプロセス 課題2：都市のセグメンテーションに関するミニテスト				
15～16	地方創生戦略を考えるためのマーケティング手法① ・PEST分析 ・3C分析 ・SWOT分析 等				
17～18	地方創生戦略を考えるためのマーケティング手法② ・ビジネスモデルとエコシステム ・プロモーション戦略 ・DX ・アジャイル ・デザイン思考				

19～20	スマートシティの国内外の動向と類型		
21～22	地方創生における経済性効果 課題3：地方創生戦略に関するミニテスト		
23～24	ある地方都市の状況をふまえ、地域おこし/地方創生のアイデア創出① ・問題点の整理		
25～26	ある地方都市の状況をふまえ、地域おこし/地方創生のアイデア創出② ・目指す姿と課題の整理 ・ステップアッププランの検討 ・アクションプラン検討		
27～28	魅力的な提案書の書き方とプレゼンテーション ・資料のストーリー ・プレゼンテーション手法		
29～30	・地域おこし/地方創生のための提案・期末レポートの作成 ・課題4：ブロックテスト		

成績評価方法

4つの到達目標（学修成果）に対応して設けた4つの課題とレポート、および、各授業で行う小テストの結果によって評価する。

〔成績評価の方法〕

ブロックテストを実施しない回には自動採点の小テストを実施する。

ブロックテスト（課題1、課題2、課題3、課題4）は自動採点のテスト形式で実施する。

この他に、ビジネス提案レポートを設ける。なお、レポートへのフィードバックはLMSを通じて行う。

〔基準〕

小テストの合計は、25%とする。

課題1～課題4のブロックテスト（合計4回）は、60%とする。

ビジネス提案レポートは、15%とする。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	秀、S（4）：90点以上
小テスト	◎	○	○				25	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート	○	◎	◎				15	良、B（2）：70点以上
ブロックテスト	◎	○	○				60	可、C（1）：60点以上
発表・作品							評価なし	不可、E（0）：59点未満
演習							評価なし	未修得、履修放棄、F
出席							欠格条件	（ ）内はGPA点数
担当教員	野元 伸一郎			実務経験紹介	博士（知識科学） 修士（技術経営） 修士（経営工学）			

科目名	PBL基礎Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		時間数	30	開設期	3年次		
受講条件			開設時期	3	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	PBL基礎Ⅰを受講した学生が自ら問題を見つけ、さらにその問題を自ら解決する能力を身に付ける学習を通じて、ヒューマンスキルの向上をはかる。							
授業の一般目標	企業や団体・自治体との連携を通して現実社会での課題解決に貢献する。							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
☒ 知識・理解の観点	思考法やプロジェクトの進め方などの方法論を身に付けられたか・協力企業／団体の状況について正しく理解できたか							
☒ 思考・判断の観点	さまざまな段階で状況を進展させるアイデアを出せるか							
☒ 関心・意欲の観点	問題解決能力の必要性を理解し、関心を持って臨んでいるか							
☒ 態度の観点	授業に積極的に参加し、チームに貢献できているか							
☒ 技能・表現の観点	アイデアを相手に正しく伝えられるよう表現できるか・協力企業／団体の課題を解決できたか							
授業計画（全体）								
アイデアの出し方、発表の仕方について演習を通じて学習します。								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等		授業の記録		
1～2	オリエンテーション							
3～4	企業紹介							
5～10	リサーチ・着想・発案練習							
11～12	プロトタイピング・テスト練習 講評							
13～14	リサーチ・着想・発案							
15～16	中間発表①							
17～18	プロトタイピング・テスト①							
19～20	中間発表②							
21～28	プロトタイピング・テスト②							
29～30	最終成果発表							
成績評価方法								
1 授業内で下記観点から評価を行う。								
2 授業最終課題提出によって下記観点から評価を行う。								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○			20	秀、S（4）：90点以上
小テスト							評価なし	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	良、B（2）：70点以上
授業態度			◎	◎			20	可、C（1）：60点以上
発表・作品					◎		20	不可、E（0）：59点未満
演習	◎	◎	○	○	○		40	未修得、履修放棄、F
出席							欠格条件	（ ）内はGPA点数
担当教員	吉田昌乗			実務経験紹介	https://www.tansan.co/			

科目名	PBL I	単位数	4	科目コード				
授業形態	演習	時間数	120	開設期	4年次			
受講条件		開設時期	4	教員実務経験対象	有			
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	学生が自ら問題を見つけ、さらにその問題を自ら解決する能力を身に付ける学習を通じて、ヒューマンスキルの向上をはかる。山口県中小企業家同友会との連携授業において、経営者とのコミュニケーション、プレゼンテーションを行います。							
授業の一般目標	企業や団体・自治体との連携を通して現実社会での課題解決に貢献する。							
受講条件								
事前学習について （テキスト・参考書等）								
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点	思考法やプロジェクトの進め方などの方法論を身に付けられたか・協力企業／団体の状況について正しく理解できたか							
☑ 思考・判断の観点	さまざまな段階で状況を進展させるアイデアを出せるか							
☑ 関心・意欲の観点	問題解決能力の必要性を理解し、関心を持って臨んでいるか							
☑ 態度の観点	授業に積極的に参加し、チームに貢献できているか							
☑ 技能・表現の観点	アイデアを相手に正しく伝えられるよう表現できるか・協力企業／団体の課題を解決できたか							
授業計画（全体）								
・山口県中小企業家同友会の会員企業と連携し、経営者の課題に向き合い課題解決提案と制作と納品を行います。								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1～4	オリエンテーション・事前学習							
5～8	企業紹介・協業企業の選定・着想①							
9～12	各企業との個別相談会①・着想②							
13～16	着想③							
17～20	企業訪問・着想③							
21～24	発案①							
25～28	各企業との個別相談会・発案②							
29～32	発案③							
33～36	各企業との個別相談会②・プロトタイピング・テスト①							
37～40	プロトタイピング・テスト②							
41～44	各企業との個別相談会③・プロトタイピング・テスト④							
45～48	プロトタイピング・テスト⑤							
49～52	各企業との個別相談会④・プロトタイピング・テスト⑦							
53～58	プロトタイピング・テスト⑧							
59～66	前期末最終成果発表							
67～74	オリエンテーション・PBL①事前学習							
75～84	PBL①着想							
85～92	PBL②着想							
93～98	PBL③発案							
99～110	PBL④プロトタイピング・テスト							
109～120	後期末最終成果発表							
成績評価方法								
1 授業内で下記観点から評価を行う。								
2 授業最終課題提出によって下記観点から評価を行う。								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	◎					10	秀、S（4）：90点以上
小テスト							評価なし	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	良、B（2）：70点以上
授業態度			◎	◎	○		50	可、C（1）：60点以上
発表・作品							評価なし	不可、E（0）：59点未満
演習	○	○	◎	◎	○		40	未修得、履修放棄、F
出席							欠格条件	（ ）内はGPA点数
担当教員	吉田昌乗		実務経験紹介		https://www.tansan.co/			

科目名	PBLⅡ		単位数	4	科目コード			
授業形態	演習		時間数	120	開設期	4年次		
受講条件			開設時期	4	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	学生が自ら問題を見つけ、さらにその問題を自ら解決する能力を身に付ける学習を通じて、ヒューマンスキルの向上をはかる。山口県中小企業家同友会との連携授業において、経営者とのコミュニケーション、プレゼンテーションを行います。							
授業の一般目標	企業や団体・自治体との連携を通して現実社会での課題解決に貢献する。							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点	思考法やプロジェクトの進め方などの方法論を身に付けられたか・協力企業／団体の状況について正しく理解できたか							
☑ 思考・判断の観点	さまざまな段階で状況を進展させるアイデアを出せるか							
☑ 関心・意欲の観点	問題解決能力の必要性を理解し、関心を持って臨んでいるか							
☑ 態度の観点	授業に積極的に参加し、チームに貢献できているか							
☑ 技能・表現の観点	アイデアを相手に正しく伝えられるよう表現できるか・協力企業／団体の課題を解決できたか							
授業計画（全体）								
・山口県中小企業家同友会の会員企業と連携し、経営者の課題に向き合い課題解決提案と制作と納品を行います。								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等		授業の記録		
1～4	オリエンテーション・事前学習							
5～8	企業紹介・協業企業の選定・着想①							
9～12	各企業との個別相談会①・着想②							
13～16	着想③							
17～20	企業訪問・着想③							
21～24	発案①							
25～28	各企業との個別相談会・発案②							
29～32	発案③							
33～36	各企業との個別相談会②・プロトタイピング・テスト①							
37～40	プロトタイピング・テスト②							
41～44	各企業との個別相談会③・プロトタイピング・テスト④							
45～48	プロトタイピング・テスト⑤							
49～52	各企業との個別相談会④・プロトタイピング・テスト⑦							
53～58	プロトタイピング・テスト⑧							
59～66	前期末最終成果発表							
67～74	オリエンテーション・PBL①事前学習							
75～84	PBL①着想							
85～92	PBL②着想							
93～98	PBL③発案							
99～110	PBL④プロトタイピング・テスト							
109～120	後期末最終成果発表							
成績評価方法								
1 授業内で下記観点から評価を行う。								
2 授業最終課題提出によって下記観点から評価を行う。								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	◎					10	秀、S（4）：90点以上
小テスト							評価なし	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	良、B（2）：70点以上
授業態度			◎	◎	○		50	可、C（1）：60点以上
発表・作品							評価なし	不可、E（0）：59点未満
演習	○	○	◎	◎	○		40	未修得、履修放棄、F
出席							欠格条件	（ ）内はGPA点数
担当教員	赤木康二			実務経験紹介				

科目名	PBLⅢ		単位数	4	科目コード			
授業形態	演習		時間数	120	開設期	4年次		
受講条件			開設時期	4	教員実務経験対象	有		
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	学生が自ら問題を見つけ、さらにその問題を自ら解決する能力を身に付ける学習を通じて、ヒューマンスキルの向上をはかる。山口県中小企業家同友会との連携授業において、経営者とのコミュニケーション、プレゼンテーションを行います。							
授業の一般目標	企業や団体・自治体との連携を通して現実社会での課題解決に貢献する。							
受講条件								
事前学習について （テキスト・参考書等）								
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点	思考法やプロジェクトの進め方などの方法論を身に付けられたか・協力企業／団体の状況について正しく理解できたか							
☑ 思考・判断の観点	さまざまな段階で状況を進展させるアイデアを出せるか							
☑ 関心・意欲の観点	問題解決能力の必要性を理解し、関心を持って臨んでいるか							
☑ 態度の観点	授業に積極的に参加し、チームに貢献できているか							
☑ 技能・表現の観点	アイデアを相手に正しく伝えられるよう表現できるか・協力企業／団体の課題を解決できたか							
授業計画（全体）								
・山口県中小企業家同友会の会員企業と連携し、経営者の課題に向き合い課題解決提案と制作と納品を行います。								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1～4	オリエンテーション・事前学習							
5～8	企業紹介・協業企業の選定・着想①							
9～12	各企業との個別相談会①・着想②							
13～16	着想③							
17～20	企業訪問・着想③							
21～24	発案①							
25～28	各企業との個別相談会・発案②							
29～32	発案③							
33～36	各企業との個別相談会②・プロトタイプング・テスト①							
37～40	プロトタイプング・テスト②							
41～44	各企業との個別相談会③・プロトタイプング・テスト④							
45～48	プロトタイプング・テスト⑤							
49～52	各企業との個別相談会④・プロトタイプング・テスト⑦							
53～58	プロトタイプング・テスト⑧							
59～66	前期末最終成果発表							
67～74	オリエンテーション・PBL①事前学習							
75～84	PBL①着想							
85～92	PBL②着想							
93～98	PBL③発案							
99～110	PBL④プロトタイプング・テスト							
109～120	後期末最終成果発表							
成績評価方法								
1 授業内で下記観点から評価を行う。								
2 授業最終課題提出によって下記観点から評価を行う。								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	◎					10	秀、S（4）：90点以上
小テスト							評価なし	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	良、B（2）：70点以上
授業態度			◎	◎	○		50	可、C（1）：60点以上
発表・作品							評価なし	不可、E（0）：59点未満
演習	○	○	◎	◎	○		40	未修得、履修放棄、F
出席							欠格条件	（ ）内はGPA点数
担当教員	吉田昌乗		実務経験紹介		https://www.tansan.co/			

科目名	PBLⅣ		単位数	4	科目コード			
授業形態	演習		時間数	120	開設期	4年次		
受講条件			開設時期	4	教員実務経験対象	有		
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	学生が自ら問題を見つけ、さらにその問題を自ら解決する能力を身に付ける学習を通じて、ヒューマンスキルの向上をはかる。山口県中小企業家同友会との連携授業において、経営者とのコミュニケーション、プレゼンテーションを行います。							
授業の一般目標	企業や団体・自治体との連携を通して現実社会での課題解決に貢献する。							
受講条件								
事前学習について （テキスト・参考書等）								
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点	思考法やプロジェクトの進め方などの方法論を身に付けられたか・協力企業／団体の状況について正しく理解できたか							
☑ 思考・判断の観点	さまざまな段階で状況を進展させるアイデアを出せるか							
☑ 関心・意欲の観点	問題解決能力の必要性を理解し、関心を持って臨んでいるか							
☑ 態度の観点	授業に積極的に参加し、チームに貢献できているか							
☑ 技能・表現の観点	アイデアを相手に正しく伝えられるよう表現できるか・協力企業／団体の課題を解決できたか							
授業計画（全体）								
・山口県中小企業家同友会の会員企業と連携し、経営者の課題に向き合い課題解決提案と制作と納品を行います。								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等		授業の記録		
1～4	オリエンテーション・事前学習							
5～8	企業紹介・協業企業の選定・着想①							
9～12	各企業との個別相談会①・着想②							
13～16	着想③							
17～20	企業訪問・着想③							
21～24	発案①							
25～28	各企業との個別相談会・発案②							
29～32	発案③							
33～36	各企業との個別相談会②・プロトタイプング・テスト①							
37～40	プロトタイプング・テスト②							
41～44	各企業との個別相談会③・プロトタイプング・テスト④							
45～48	プロトタイプング・テスト⑤							
49～52	各企業との個別相談会④・プロトタイプング・テスト⑦							
53～58	プロトタイプング・テスト⑧							
59～66	前期末最終成果発表							
67～74	オリエンテーション・PBL①事前学習							
75～84	PBL①着想							
85～92	PBL②着想							
93～98	PBL③発案							
99～110	PBL④プロトタイプング・テスト							
109～120	後期末最終成果発表							
成績評価方法								
1 授業内で下記観点から評価を行う。								
2 授業最終課題提出によって下記観点から評価を行う。								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	◎					10	秀、S（4）：90点以上
小テスト							評価なし	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	良、B（2）：70点以上
授業態度			◎	◎	○		50	可、C（1）：60点以上
発表・作品							評価なし	不可、E（0）：59点未満
演習	○	○	◎	◎	○		40	未修得、履修放棄、F
出席							欠格条件	（ ）内はGPA点数
担当教員	吉田昌乗			実務経験紹介	https://www.tansan.co/			

科目名	ゼミ活動	単位数	5	科目コード				
授業形態	演習	時間数	150	開設期	4年次			
受講条件	PBLⅠ～Ⅳの履修完了（または同等の能力）	開設時期	4通年	教員実務経験対象	有			
授業概要 （目的、目標とする資格・検定等）	本演習は、PBLⅠ～Ⅳまでに修得した課題発見・アイデア発案・プロトタイピング・企業連携プレゼンテーションの経験を統合し、年間を通じた集大成として高度なプロジェクト（卒業研究・制作、課題解決型ビジネス提案等）を自立的に遂行する科目です。学生自らが高度なテーマを設定し、企業・地域・各種団体との協業や実証実験を通じて、実践的な成果物の納品・社会実装を目指します。							
授業の一般目標	1. 実用レベルの課題解決手法を自立的に選択・運用し、プロジェクトを完遂する。 2. 企業・自治体・顧客等のステークホルダーと高度な交渉・連携を行い、社会的価値を創出する。 3. 自ら制作・分析・検証した成果を論理的に整理し、説得力あるプレゼンテーションおよび報告書として取りまとめる。							
受講条件								
事前学習について （テキスト・参考書等）								
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点	自身の専門分野における高度な知識・最新動向を正しく理解し、課題解決の根拠として応用できる。協業相手（企業・地域・ターゲット層）の状況やニーズを論理的かつ多角的に分析・把握できる。							
☑ 思考・判断の観点	不確実性の高い状況下においても、仮説検証やプロトタイピングを通じて最適な解決策を導き出し、適切な判断を下すことができる。							
☑ 関心・意欲の観点	4年間の学びの集大成として高い当事者意識を持ち、自発的かつ継続的にプロジェクトを進行・管理できる。							
☑ 態度の観点	チームや連携先とのコミュニケーションにおいて、誠実かつプロフェッショナルな姿勢を保ち主体的に貢献できる。							
☑ 技能・表現の観点	実践的かつ高品質な成果物（システム、デザイン、ビジネスプラン、報告書等）を制作・納品できる。プロジェクトの意義および成果を外部へ明確に伝えるプレゼンテーション能力と表現力を有している。							
授業計画（全体）								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1～5	年間スケジュールの把握、PBLⅠ～Ⅳの振り返り、各自／各チームのテーマ設定と仮説構築。							
6～15	先行事例・競合・ターゲットの定性/定量調査を実施。課題の真因を分析。							
16～25	連携先企業・自治体等へのヒアリング調査、プロジェクトの要件定義と目標KPIの設定。							
26～35	課題解決に向けたアイデア出し、コンセプト策定、実現可能性（Feasibility）の検証。							
36～50	ソリューションの骨組み（UI/UX設計、基本仕様書、初期モデル等）を構築。							
51～65	連携企業・教員による中間プレレビュー。初期モデルに対するフィードバックの反映とテスト。							
66～75	前期の成果（リサーチ・コンセプト・初期プロトタイプ）の発表と、後期計画の再構築。							
76～90	前期のフィードバックに基づく機能追加、本制作・実装プロセスの推進。							
91～105	デザイン・システム・提案内容のブラッシュアップ。完成度の引き上げ。							
106～120	実証実験・フィールドテスト・ユーザーテスト							
121～135	成果物の完成、企業への納品仕様調整、研究報告書（卒業論文/制作レポート）の作成。							
136～145	外部審査員・企業関係者を招いた最終発表会に向けたスライド制作と発表リハーサル。							
146～150	年間の集大成となる最終成果発表会の実施。全体の振り返りと成果のポートフォリオ化。							
成績評価方法								
1 授業内で下記観点から評価を行う。								
2 授業最終課題提出によって下記観点から評価を行う。								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	秀、S（4）：90点以上
小テスト							評価なし	優、A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	良、B（2）：70点以上
授業態度・プロセスマネジメント		○	◎	◎			30	可、C（1）：60点以上
発表・作品	○	◎			◎		70	不可、E（0）：59点未満

演習							評価なし	未修得、履修放棄、F
出席							欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	濱田 和生 (予定)			実務経験紹介				